

平成30年度第1四半期指摘事項一覧(事業者の処置結果追記分)

原子力事業所又は原子力施設名: 関西電力株式会社 高浜発電所

作成責任者 統括原子力運転検査官 山西 忠敏

番号	指摘日	事務所 担当者	事業者 対応者	指摘(要旨)	事業者 回答日	事業者の処置状況
1	H30.6.1	山西	高浜発電所 所長	関西電力株式会社高浜発電所における平成29年度安全文化醸成活動の実施状況を踏まえ、当事務所より取組要請事項に係る指導文書を発出した。 (参照: http://www.nsr.go.jp/jimusho/takahama/report.html)	H30.6.25	取組要請事項についてはH30年度の重点施策に基づく各課の活動計画の中で取り組むこととしており(H30.6.5所内決裁)、現在、計画に基づき実施中。
2	H30.5.11	山西	安全・防災 室長	【重大事故等発生時の対応に係る総合的な訓練時の指摘】 「可搬型使用済燃料ピット水位による水位計測」(緊急時対策要員用)の手順書に従い4号機使用済み燃料ピットエリアで実施した可搬型水位計を設置する作業において、測定用の信号ケーブルを支えるポールを床面の固定用穴に挿入する際に、固定用穴に完全に挿入出来ない事象が発生しました。緊急要員リーダーから連絡を受けたユニット指揮者はコントローラに伝え、コントローラは続行不可能と判断し、当該作業を中止するように指示した。その後、当該ポールと固定用穴の状態を設備所管課が確認し、固定用金具が固定用穴に微妙に入りにくい状態であったが問題無く挿入出来ることを確認した。その後、ユニット指揮者は、コントローラの指示を受けて、速やかに一連の作業を再度実施し、想定時間内に作業を完了出来ることを確認しました。 以上のことから、ポールと床面の固定用穴の嵌合状態が、抜き差し等の作業による金具の微妙な変形等で挿入しづらい状態が今後も発生する懸念があるため、構造の見直しを検討して頂きたい。	H30.6.25	ポールと床面の固定用穴の嵌合状態が、抜き差し等の作業による金具の変形等で挿入しづらい状態となることを防止するため、ポール先端に金具を追加(溶接等により固定)し、金具が歪まないような対策を講じる予定。(次回シーケンス訓練までに実施予定)
					H30.9.26	ポールと床面の固定用穴の嵌合状態が、抜き差し等の作業による金具の変形等で挿入しづらい状態となることを防止するため、ポール先端に金具を追加(溶接等により固定)し、金具が歪まないような対策を講じる工事について、SFP周りの現場輻輳を回避して2018年 11月に実施することで調整済。
					H30.12.20	ポール先端に金具を追加(溶接により固定)し、金具が歪まないような対策を講じた。(2018年11月完了)
(※)番号1については、前四半期に事業者の処置完了を確認済み。番号2は、事業者の処置完了を確認済み。						